

内閣府特命担当大臣

城内 実 殿

公益社団法人 日本精神科病院協会

会 長 山崎 學

オンライン精神療法に関する懸念表明

このたび、令和 6 年 6 月 21 日付で閣議決定されました「規制改革実施計画」におけますオンライン精神療法に係る指針の見直しおよび新たな指針の策定について、公益社団法人日本精神科病院協会（以下、日精協）は、国民の皆さまに良質かつ適切な精神医療の提供を継続的に確保する観点から、計画策定の議論の経緯、根拠となるエビデンス、および精神科医療特有の安全性・妥当性に関する重大な懸念を表明させていただきます。

本計画の推進にあたり、精神科領域の特殊性を十分にご理解いただき、患者さんの安全と医療の質を最優先とする立場から、下記の点について慎重なご検討と、日精協との建設的な意見交換の機会を強く要望いたします。

1. 計画策定の経緯とエビデンスに関する懸念

（1）検討の経緯とプロセスに対する懸念

・「規制改革実施計画」（Ⅱ－3－（6）－（i）d 項）に「情報通信機器を用いた精神療法に係る指針の見直し」が盛り込まれた際、特に初診精神療法のオンライン実施の必要性が具体的にどのようなデータや事実（例：地域格差、通院困難者数等）に基づいて求められたのか、その根拠が不明瞭であることに懸念を有しています。

・精神医療提供者団体の安全性確保の観点からの慎重な意見が、計画策定過程において、どのように評価され、最終的な文言に反映されたのかについて、十分な情報開示と透明性が確保されているか懸念しています。

（2）エビデンスの妥当性に関する懸念

・計画に「精神疾患に対するオンライン診療が対面診療と同等の有用性を示すエビデンスが国内外において示されている」と記載されていますが、この根拠とされる研究論文、データ、報告書等が、初診時の精神療法や長期的な治療効果に関して、安全性・必要性・有効性を厳密に評価した無作為化比較試験（RCT）レベルの確固たるものであるかについて、深く懸念しています。

・海外での実施事例を参考にされる場合、当該国の精神医療提供体制、医療者訓練体制、医療倫理・安全対策に関する規制の概要を正確に把握し、日本の医療体制へ適用する上でのリスクを適切に評価されているか、懸念しています。

2. 精神科領域におけるオンライン診療の安全性・妥当性に関する懸念

精神科医療においては、患者さんの非言語的情報（表情、仕草、声のトーン、身体的変化等）が診断、重症度評価、特に自殺リスク評価に不可欠であり、これらがオンラインでは把握しにくく、診断精度と安全管理に重大な影響を及ぼす可能性があります。

（1）診断の安全性・リスク管理に関する懸念

・初診時において、オンライン診療で対面診療と同等の情報（特に自殺企図の有無や精神症状の重症度）を確実に得るための具体的な技術的要件、医師の研修要件、緊急時の安全管理体制が、新たな指針でどのように確立されるのか、その具体策が示されていないことに懸念を抱いています。

（2）処方と不適切利用の防止に関する懸念

・向精神薬等の処方に関し、「なりすまし受診」や「薬剤の乱用・転売」を防止するための本人確認方法、および処方期間等の規制緩和の是非について、日精協が指摘してきた問題点をどのように評価し、具体的にどのような対応策を講じる予定か懸念しています。

（3）営利企業によるオンライン診療の実施体制に関する懸念

・一部のオンライン診療機関で見られる、営利企業（株式会社）の集患・システム提供・事務業務等への深い関与は、医療機関の非営利性を原則とする我が国の体制において、医療の質・倫理・安全性確保の観点から深刻な懸念をもたらします。

・営利目的の追求による、不適切な広告や患者の囲い込み等の懸念に対し、新たな指針において、どのような規制・監視体制を構築するのか、その具体策が不明確であることに懸念しています。

（4）診療の継続性に関する懸念

・オンライン診療を専門とする医療機関において、スポット（単発）勤務医師が診療にあたる事例は、継続的な治療関係・信頼関係の構築が治療効果に不可欠な精神科医療において、継続性の欠如、情報共有の不徹底、状態変化の見逃しなどの重大なリスクを生じさせます。

・新たな指針策定にあたり、オンライン精神療法に従事する医師に対し、診療の継続性確保、緊急時の24時間連携体制、勤務形態（常勤・非常勤割合等）、引継ぎ・情報共有の義務化など、患者さんの安全を守るための具体的な規定が設けられるのか懸念しています。

結び

公益社団法人日本精神科病院協会は、地域における精神医療の継続的提供と、患者さんの安全を最優先とする医療の実現に向け、規制改革会議における議論の動向を注視し、引き続き建設的な意見交換を行ってまいりたいと考えております。つきましては、上記に表明しましたオンライン精神療法に関する重大な懸念に対し、誠意あるご見解と今後の具体的な対応策を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。